

# 観光振興対策・地域公共交通対策等特別委員会 県内調査概要

令和5年8月28日（月）

## 1 グランパーク吉野（吉野郡吉野町色生1080-1）

### 【調査目的】

宿泊客誘客のための取組について

### 【調査の概要】

コロナ禍で「密を避ける」という面から人気となったアウトドアに着目し、母体となっているグランデージゴルフ倶楽部に隣接して、令和5年7月20日に開業された。高級感のあるグランピング施設で、台風の影響があった期間を除き、金曜から日曜は毎週満室の予約が入っている。

このような自然と調和した宿泊施設は、県の特徴を活かした取組と考えられる。この特徴を興味のある客層に対して的確に届けていることで、現状の好調な予約状況につながっている。

### <施設の概要>

- ・4名用4棟、2名用棟の計10棟のグランピングドームを設置。
- ・グランピングドームは、全室エアコン、冷蔵庫が完備され、ハンドタオルやバスタオルといったアメニティも準備されている。また、人数分のセミダブルのベッドが設置され、高級感のあるソファなど、コテージなどでのアウトドア体験とも違った非日常体験ができる。
- ・各ドームには、車を横付けでき、独立したウッドデッキ、ファイアーピットのスペースが設置されている。
- ・共有スペースには、温水炊事場や男女別のトイレ、シャワールームが設置され、隣接ゴルフ場の温泉も利用することができる。

### <食事について>

- ・持ち込み食材を備え付けの機材で調理することも可能であるが、一流シェフが考案した食事プランも準備されている。
- ・食事プランは、朝食付きのBBQセットプランのほか、食材にこだわったテキサスバーガーセット、シェフ一押しのトマホークステーキ、子どもでも簡単な「棒焼きパン」などがある。
- ・いずれも奈良県産食材を取り入れるよう工夫している。

### <広報ツール等>

- ・7月20日のグランドオープン前にプレ体験会を実施。

- ・ 広報ツールは、HP・SNSなどがメインであるが、キャンプ場検索・予約サイト「なっぷ」から宿泊予約を受けているため、アウトドアに興味のある層に情報が届いている。
- ・ コロナ禍でアウトドア志向が高まった中、グランピング施設をオープンするという事で、良いタイミングであった。

### <宿泊者の概要>

- ・ 大阪府、兵庫県といった関西圏からの宿泊だけでなく、神奈川県から公共交通機関を利用しての宿泊もある。
- ・ 夏休みにオープンしたこともあり、ファミリー層の利用が活発。複数家族での予約も目立った。

### <今後の展開について>

- ・ 将来的には、隣接のゴルフ場の顧客が利用する案内も考えたい。
- ・ 開業以降、夏はファミリーに非常に好評であったが、今後、冬期のグランピングが受け入れられるかが今後の課題でもある。
- ・ 冬期は雪が積もることもあるので、県外よりは県民にアピールできるよう広報を練っていきたいと考えている。
- ・ インバウンドの誘致については、今後展開していくことであるが、トラベルサイトへの掲載やインバウンドガイド向けにPRするなどの方法を検討している。



## **2 道の駅「宇陀路大宇陀」（宇陀市大宇陀拾生 7 1 4 - 1）**

### **【調査目的】**

ボランティア有償バスの運行について

### **【調査の概要】**

実証実験を経て令和 3 年 1 2 月から導入されたボランティア有償バス。  
宇陀市域では、このボランティア有償バスを含めて、コミュニティバスやデマ  
ンド型乗合タクシーなどを活用した公共交通網を整備している。  
少子高齢化に伴い、公共交通の重要性と課題が取り上げられているが、宇陀市  
域で活用されているボランティア有償バスは、住民自身が主体となって運行す  
るもので、県内でも例の少ない取組である。

### **<宇陀市の状況>**

- ・人口減少が進み、平成 7 年の約 4 2, 0 0 0 人をピークに直近の統計では、  
2 7, 4 2 6 人にまで落ち込んでいる。
- ・他の地域と同様に、公共交通の利用者減少に歯止めをかけることが難しく、  
路線バスの減便・廃止等の再編や、鉄道駅の駅員無配置化など、厳しい状況。
- ・地域公共交通ネットワークを持続的に形成していくことを目的に「宇陀市地  
域公共交通計画」を策定。
- ・「宇陀市地域公共交通計画」は、現在の公共交通の抱える課題を明らかにし、  
現在の市に合った地域公共交通ネットワークの将来像及びそれを実現するた  
めの施策と具体の取組を示すことを目的としている。

### **<宇陀市の公共交通（バス）>**

- ・「宇陀市地域公共交通計画」に基づき、路線バス、コミュニティバス、市営  
有償バス、公共交通空白地有償バス、デマンド型乗合タクシー、ボランティ  
ア有償バスといったバスが連携し、利用者の減少をはじめとする、それぞ  
れの課題に向き合いながら、地域交通を支えている。

### **<ボランティア有償バスについて>**

- ・バス運行に頼れない過疎地域の交通手段として、地域の住民が主体的に運転  
手となり、バスを走らせる有償バス制度。
- ・トヨタ自動車が他の地域で培ったノウハウを基に、令和 2 年 1 2 月から県内  
で初の実証実験の取組を行った。
- ・1 便あたりの利用者数などを含め、同地域内の路線バスの状況とを比較し、  
ボランティア有償バスを本格導入することとなった。

- ・現在、宇陀市から委託を受ける形で、上龍門地域まちづくり協議会、政始まちづくり協議会が連携し、1日7便運行している。
- ・平日のみの運行で、道の駅や病院、スーパーなどを停留所として設定しているが、予約制で個人宅への送迎も行っている。

### <ボランティア有償バスの効果・課題>

(効果)

- ・停留所までの移動も困難と感じている高齢者のための外出手段として活用できる。
- ・同居家族がいる方でも一人で出かけられることで外出に意欲的となり、外出の回数が増え、健康寿命の向上や住民同士のつながりの活性化に期待できる。

(課題)

- ・住民が運転手となるため、地域の高齢化にともない、運転手の確保が困難。
- ・運転手は、68歳～77歳の16名で運行している。

